

# 第5回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、作文や絵にくわしくかいてみよう

だて・すけしげ  
1932年三笠市生まれ  
学芸大学札幌分校修了  
三笠市立教育研究所所員  
空知教育研修センター講師

## 伊達佐重

当協会は北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金に共催をお願いし、北海道教育委員会にも後援を受けて「第五回夏休み自然観察記録コンクール」を行なった。全道の小学生を対象にした今年の応募数は、昨年の八十八点を大幅に上回った一五三点であった。

会報N.C.、道内の各市町村教育委員会への募集要項配付、そして北海道新聞社の募集広告がその原動力となったのである。

### ○審査員

俄 浩三(道自然保護協会会長)  
島山 武道(同 会副会長)  
吉備津政博(道新野生生物基金理事・事務局長)  
大久保フヨ(道自然保護協合理事)  
福地 郁子(同 常務理事)  
伊達 佐重(同 常務理事)  
熊木 大仁(同 常務理事)

出品作品を学年別に分け、あらかじめ作ってあった一覧表に評価記号と短評を書き込んで第一次審査が終了した。最終審査では、評価の分かれる作品について討議を重ねながら慎重に作品を選んだ。全体としては、三、四年生の観察記録にすぐれた作品が多かったと感じている。

○入賞者は次の通りである。

### 金賞

伊藤 結美(恵庭市立若草小学校三年)

こけの研究

### 銀賞

刀禰 浩一(根室市立花咲小学校四年)

### 銅賞

明治公園で見つけた生きもの  
藤川 朋子(旭川市立啓明小学校二年)  
アリのかんさつ

坂 尚憲(札幌市立緑丘小学校五年)  
カタツムリの観察

寺島 千博(苫小牧市立泉野小学校五年)  
金魚がたまごを生んだよ

佐藤 愛美(栗山町立栗山小学校四年)  
かたつむり

刀禰 春洋(根室市立花咲小学校三年)  
トリオップスの飼育

高木 宏徳(札幌市立月寒小学校二年)  
秋の虫たちつかまえた

荒谷 有紗(札幌市立苗穂小学校一年)  
あおむしのかんさつ

### 佳作

寺島 弥子(苫小牧市立泉野小学校六年)  
牛の胃は四つもあるの?

西川 直輝(由仁町立三川小学校六年)  
コオロギの成長と羽化

本間雄二郎(札幌市立平岡公園小学校六年)  
雲の観察

西條 悠(美瑛町立儀真布小学校五年)  
カイちゃんの成長日記

長沢 公一(紋別市立沼ノ上小学校五年)  
牛の出産

岩淵 拓馬(札幌市立太平小学校四年)  
けんぴきょうでのぞいて見たら

小林 梢(栗山町立栗山小学校四年)  
かたつむりの本

中村 堯祉（函館市立金堀小学校四年）

けんび鏡での観察

牧野 汐美（札幌市立太平小学校四年）

おじぎそうのかんさつ

稲葉 貴子（函館市立柏野小学校三年）

ナミアゲハのかんさつ

神田 聖也（札幌市立栄町小学校三年）

毛がに

吉岡 容香（札幌市立宮の森小学校三年）

スズ虫の研究

木谷空見子（札幌市立土幌小学校二年）

十かち三またの花と虫

千代 武志（旭川市立永山南小学校二年）

アゲハちょうのかんさつ

西田 智紀（稚内市立稚内中央小学校二年）

雑草の観察

磯谷 巧（北広島市立大曲東小学校一年）

みんないきてる夏休みのいきもの

柴田 泰行（音別町立音別小学校一年）

ぼくのおんべつ川

戸田 大基（函館市立北美原小学校一年）

あおむしのかんさつ

中島 貴洋（中富良野町立中富良野小一年）

あさがおのかんさつにつき

森 才華（教育大附属釧路小学校一年）

おたまじゃくしからかえる やごからと

んぼ

学校賞

栗山町立栗山小学校

札幌市立太平小学校

紋別市立沼ノ上小学校

### 審査を終えて

力作多く印象に残る

今回寄せられた作品数は、これまでの最多の百五十三点（七十五校）でした。参加者は、五点の共同研究者を含めると百六十二人です。最優秀作品に選ばれた伊藤結美さんの「こけの研究」は、支笏湖の苔の洞門と自宅周辺のコケを詳しく調べてまとめたものです。三年生としての水準が高いのは、研究にかけた熱意と時間の結晶だからでしょう。

銀賞の藤川朋子さんは、「アリのかんさつ」でア리가どんな食べ物をどうやって巣に運び入れるかを手順を考えながら、実験と観察を続けたものです。作文も絵もまとまりがありました。えさを与えた時刻や回数などの記録をすれば、もっと良くなったでしょうね。

刀禰浩一さんは、「明治公園で見つけた生きもの」をわかりやすく面白く中心にまとめました。昨年までの説明文中心から脱け出して新しい取り組みを始めたんですね。

銅賞では「あおむしのかんさつ」を根気強く続けて、きれいで温かみのある絵をのせた荒谷有紗さん、「かたつむり」を自分なりに楽しみながらまとめた佐藤愛美さん、絵と説明文をマジックペンで色分けし、枠の中に上手にまとめた寺島千博さん、「カタツムリの観察」を続け、自分の目で見つけて、自分の言葉で表現した坂尚憲さんなどが印象に残りました。

佳作では、本間雄二朗さんの「雲の観察」が力作でした。また、「ぼくのおんべつ川」で釣った

魚の絵を中心にまとめた柴田泰行さん、「エンマコオロギの成長と羽化」をいろどり鮮やかな図に仕上げた西川直輝さんなどの作品が目を引きました。

選外で高橋泰弘さんの記録「蛙とぼくらの毎日」も立派でした。次の作品を期待しています。

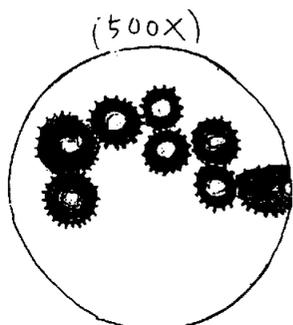
審査の過程で、①応募数が多く全体の水準が高い、②主題の着眼点が優れているなどの学校に対し「学校賞」を贈ることが決まり、三校を選定しました。

（一九九八・十・二六の道新より転載）

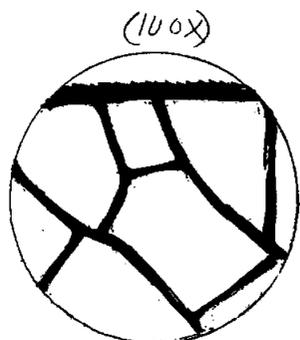


「エンマコオロギの成長と羽化」より  
6年 西川 直輝

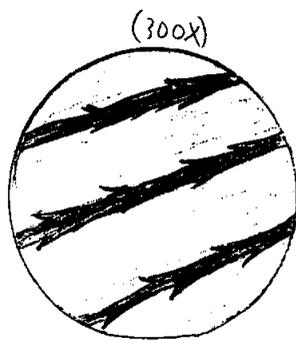
学年	応募点数	入賞者数				
		金賞	銀賞	銅賞	佳作	計
1	19			1	5	6
2	28		1	1	3	5
3	31	1		1	3	5
4	28		1	1	4	6
5	32			2	2	4
6	15				3	3
計	153	1	2	6	20	29



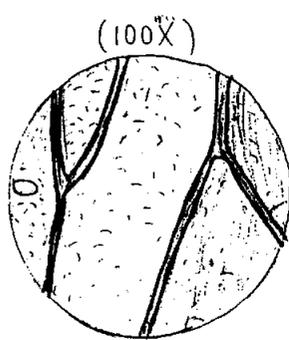
ヒマワリの花ふん



トンボのはね



トンボのわたげ



はちのはね

けんびきょうで のぞいてみたら 4年 岩瀬 拓馬

# 夏休み 自然観察記録 コンクール 作品募集

- 対象テーマ／島のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。
- 応募資格／◆道内に在住する小学生。
- 応募規定／◆作文用紙は自由な規格。低学年は毎日記ふうなまとめ方でもよい。
- ◆絵は画材、用紙、大きさ自由。応募の例として、  
①作文だけ ②作文と絵 ③絵だけなど自由。
- ◆作文は表に、絵は裏にそれぞれ応募する。
- (題、住所、氏名、学校名、学年を明記してください)
- ◆作文はペジ書き、絵には順序を示す月、日や番号を入れる。
- ◆応募先／〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加藤ビル5  
(社)北海道自然保護協会 ☎011-251-5465
- 締め切り／1998年9月14日(月)必着(郵法が特)
- 入賞者の発表／10月下旬までに北海道新聞紙上で入賞者を発表し、本人または在学する小学校へ通知を発送します。
- その他／応募作品は返却しません。優秀作品は北海道新聞および自然保護協会の広報誌などに掲載します。本年度(1998年)の作品で未発表のものに限ります。

金賞 1名 (賞状、図書券10,000円)  
銀賞 2名 ( / / 7,000円)  
銅賞 6名 ( / / 5,000円)  
佳作 20名 (賞状、記念品)

■主催／(社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、  
(財)北海道新聞野生生物基金

■後援／北海道教育委員会

収益金はすべて、北海道の自然と野生生物を守る事業に使われます。

(北海道新聞より転載)

# 優秀作品紹介

金賞

## こけの研究

恵庭市立若草小学校三年

伊藤 結美

### はじめに

千葉のおばさんをつれて、こけのどうもんを見に行きました。こけのどうもんは、しこつこのはじで、ふっぶし岳のふもとにありました。

こけのどうもんは、長いこけのとんねるで、とてもきれいでびっくりしました。わたしは、こけつてきれいだっただんだと思って、こけがすきになり調べてみることにしました。

### こけのどうもん

こけのどうもんは、たるまえ山のふん火でできた火山ばいが雨や雪どけの水でけずられてできた。夏でもすずしく、光のあたりぐあいや温度、しつ度でこけにちようどよい。こけのどうもんにはえているこけは、35しゅるいある。入り口から420m。

### へかんさつ

もちもの＝虫めがね、図かん、メモ帳、えん筆

### へ記録

#### ●一回目のかんさつ

六月二十一日はれ、温度二十三度、どうもんの中は十八度

「ジャゴケ」虫めがねで見ると、葉の表面がたくさんの六角形にわかれている。へびのように見

える。岩のかべにたくさんひろがっていた。(図付き。この日は六種類、ほかは略)

#### ●二回目のかんさつ

七月十九日はれ、温度二十六度、しつ度五十二度、どうもんの中は二十二度、六十四度

「ハネヒツジゴケ」きみどり色で、すこしふわふわとやわらかいかんじで、岩の上が多い。いちばんはじっこ(先端部分)が白っぽい。

#### へ二回のかんさつから

。一回目に見つけられなかったコケをさがして七月もう一度かんさつにいった。

こけのどうもんには三十五しゅるいのコケがあるけど、わたしがわかったのは十しゅるいです。

#### へ研究を終えて

①こけのどうもんに行くと、とてもきれいだっただので、こけを調べたら、たくさんしゅるいのこけがあって、形も色も少しちがうので、とてもおもしろかった。

②よく見たら家の周りにもいろいろなしゅるいのこけがあった。休み中に登った旭岳と雨りゅう沼しつげんに、こけを見ながらの山登りは楽しかった。

# こけの研究

いとうゆうみ

## わたしが見つけたこけ

### こけのどうもん

### 家の周りのこけ



シ、ゴケ

「虫めがねで見ると、葉の表面がたくさんの六角形にわかれている。へびのように入っている。」



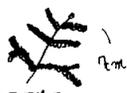
エビゴケ

・ななめに葉のようだが、平らでゴケがはえているけど、葉の真ん中がエビのひれのようになっているので、エビのひれがはえている。わたしはエビゴケだ。



ゼニゴケ

・平らでゴケがはえているけど、葉の真ん中がエビのひれのようになっているので、エビのひれがはえている。わたしはゼニゴケだ。



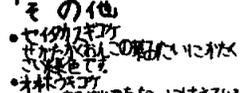
クジゴケ

・平らでゴケがはえているけど、葉の真ん中がエビのひれのようになっているので、エビのひれがはえている。わたしはクジゴケだ。



エンゴケ

・葉の真ん中がエビのひれのようになっているので、エビのひれがはえている。わたしはエンゴケだ。



その他

・ヤブゴケ  
・シロゴケ  
・オオゴケ  
・ハナゴケ  
・ヒメゴケ  
・オトコゴケ  
・メスゴケ  
・オムシゴケ



タチゴケ

・葉はやわらかい。わたしはタチゴケだ。



オオゴケ

・葉の真ん中がエビのひれのようになっているので、エビのひれがはえている。わたしはオオゴケだ。

③名前を調べるのは、むずかしかった。  
④こけのほうしをまいてみたら、思ったより早く緑色になったので、こんなに早くはえたとよる。こんなら、そこからまた、めがでた。大きくなるまでそだてたいです。

明治公園で見つけた生きもの

根室市立花咲小学校四年

刀禰 浩一

〈まとめ〉

ぼくは、今年は、ぼくの家の近くにある明治公園というところで見つけた生きものについて、まとめました。

ほとんど自然のままなので、いろいろな生きものを見つけることができます。でも、よく目をこらしていないと見落としてしまうものや、身近にいるんだけど何かわからない昆虫もいるので、それらを中心に説明しました。

それから、明治公園の中に、川や池もあり、昆虫ばかりでなく、見つけることができる生きものも説明しました。

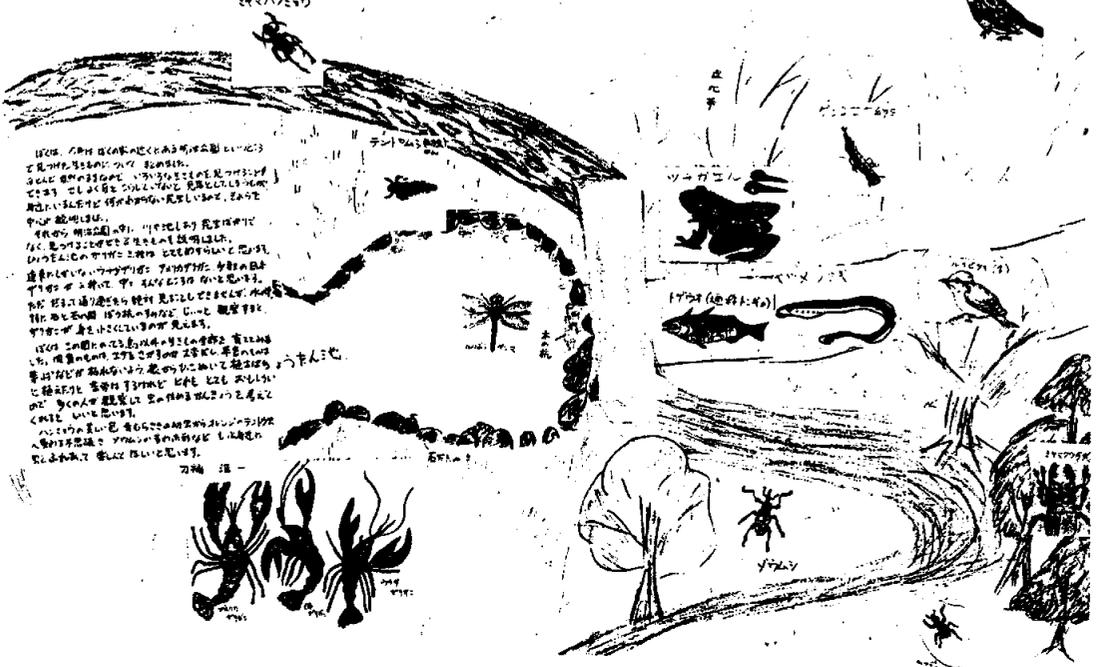
ひょうたん池のザリガニ三種は、とてもめずらしいと思います。道東にしかないウチダザリガニ、アメリカザリガニ、少数の日本ザリガニの三種がいて、なかなか、そんなところは無いと思います。ただ、だまって通り過ぎたら、絶対見ることもできませんが、水の中、特に石と石の間、ぼう杭のすみなど、じいっと観察すると、ザリガニが身を小さくしているのが見えます。

ぼくは、この図にのっている鳥以外の生きもの全部を育ててみました。肉食のものはエサをさがすのが大変だし、草食のものは、葉っぱなどが枯れないよう根からひっこめいて、植木ばちに植えたりと、苦労はするけれど、どれも、とてもおもしろいので、多くの人が観察して、虫の住めるか

んきようを考えてくれるといいと思います。

ミヤマハンミョウの美しい色、青むらさきの幼虫からオレンジのテントウム虫へと変わる不思議さ、ゾウムシの変変わった形など、もっと身近に虫とふれあって、楽しんでほしいと思います。

明治公園で見つけた生きもの



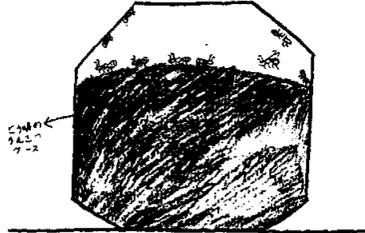
アリのかんさつ

旭川市立啓明小学校二年

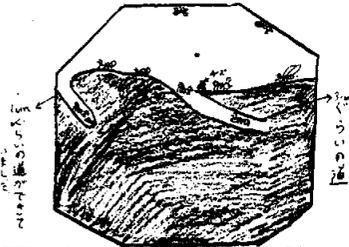
藤川 朋子

七月二十六日 はれ

わたしは、アリの道をつくるのか、どんなものを食べるのか、ようすがしりたいと思い、



わたしはアリの道をつくるのか、どんなものを食べるのか、ようすがしりたいと思いかんさつします。さしよにアリのえさが入った入れものをアリのすの入り口のすぐそばにおき、アリの数を数ひまかせました。

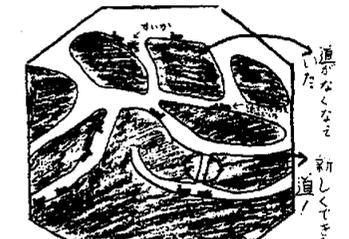


アリの道をつくるのか、どんなものを食べるのか、ようすがしりたいと思いかんさつします。さしよにアリのえさが入った入れものをアリのすの入り口のすぐそばにおき、アリの数を数ひまかせました。

かんさつします。さしよにアリのえさが入った入れものをアリのすの入り口のすぐそばにおき、アリの数を数ひまかせました。その中に羽アリが二ひきいます。七月二十七日 くもりのちはれ



アリの道をつくるのか、どんなものを食べるのか、ようすがしりたいと思いかんさつします。さしよにアリのえさが入った入れものをアリのすの入り口のすぐそばにおき、アリの数を数ひまかせました。



アリの道をつくるのか、どんなものを食べるのか、ようすがしりたいと思いかんさつします。さしよにアリのえさが入った入れものをアリのすの入り口のすぐそばにおき、アリの数を数ひまかせました。

7月26日から8月7日までの観察記録を画用紙に絵日記でまとめ、冊子編集している

- わかったこと
  - ① アリは、あまいものだけでなく、少ししょっぱいものも食べることがわかりました。(以下略)
  - ② アリのかんさつでわかったこと
  - ③ アリには、あまいものが好きなアリとそうでないアリがいます。
  - ④ あかるところよりも、くらいところのほうがうごきがかっぱつになる。あさ、おきるといつも新しい道ができていました。
  - ⑤ 道に入る入り口がいくつもある。本でしらべると、てきがおそってきた時や入り口がふさがってもにげられるようにいくつも道をつくるそうです。
  - ⑥ エサをみつけると、すぐになかまをよんでくる。自分だけで、はこべないのでなかまをよんでくるのだと思います。
  - ⑦ 土がかわいているとうごきがぶいけど、少し水を入れて土をしめらせると、うごきがかっぱつになりました。たぶん、アリは水分をひつようとしてるのだと思います。
  - ⑧ そのた：クロアリにえさをよこりされそうになると、おしりからピューッとどくをはなつそうです。





## かたつむり

栗山町立栗山小学校四年

佐藤 愛美

## 〈発見したこと〉

カタツムリは、5、6月のじめじめした雨あがりに活動します。わたしが、雨がりに山に行くとき、岩のような所で、元気よくはっています。わたしは、元気よくはっているカタツムリを見ると、「かわいいなあ。」とすぐ思っています。

春の、3、4、5、6月には、元気よく、よるによろとはっています、とくに山には、多ければ、20ぴきぐらいます。前、山に行くと、18ぴきも見つけました。

夏は、海にすんでいたカタツムリには、とてもあぶないのです。8月に、2、3回山に行きました。すると、岩みたいな所に、中身のないカタツムリを見つけました。わたしは、「かわいそうに。葉のかげに行けば、死ななかつたのに。」と思いました。

秋の、9、10月ごろに、山に行くと、カタツムリがまた出てきました。このころは、冬ごしのためのじゅんびをします。山で、せつせと草や木の葉を食べます。いい冬ごしの場所をさがして、うろうろとしています。

冬の、11、12、1、2月ごろになると、かれ葉のうらで、ぐーすかぐーすかとねています。冬に、かれ葉のうらを、さぐってみましょう。カタツムリが、まくをはってねています。こうして、春がくるのをまっています。

わたしは、「カタツムリの方が、人間より、頭がいいのかも。」と思います。

## 〈大ニュース〉

カタツムリは、水をかけると、からを、ねじるように回します。「ふしぎだなあ。なんでからを回すんだろう。」と、毎日調べてみました。

一日目は、かたつむりが、ぎゅるんぎゅるんと回しました。「かんわいい♡」と思いました。

二日目は、ぜんぜん回しませんでした。わたしは、「うーん。おかしいなあ。」と思いました。

三日目も、ぜんぜん回しませんでした。「あれえ。へんだなあ。」と思いました。

四日目は、元気よく、ぎゅるるん、ぎゅるるんと、何回も回しました。「さい高にうれしい時しかないのかなあ。」と、ふしぎに思いました。

そして、カタツムリの本を見てみても、ぜんぜんのってませんでした。だから、こずえちゃんとうたしは、「うれしい時しかないんだ。」と思いました。

## 〈ふしぎ〉

カタツムリには、人間とちがって、ほねや、のうがありません。

ほねがなくてよかったことは、とがったえだなどの上も歩けるし、こっせつもしいし、からの中に自由に入れるからです。わたしは、「自由にうったり出たりできていいなあ。」とかんしんしました。

次に、のうのことです。のうがなくて少しへんですね。カタツムリはなぜのうがないのでしょうか。わたしは、図書館に行ったり、本屋に行ったりして調べてみました。だけど、どの本にも、「ない」もの「ある」もの「ありませんでした。」なんてこん

なかんじなことがのっていないんだよ。」と思いました。

わたしは、一つだけ、カタツムリの頭の良さを知っています。人間が、犬みたいに、「おいで」や「だめ」などを教えると、ちゃんと言うことを聞きます。わたしは、「カタツムリって、頭がいいんだ。」と思いました。

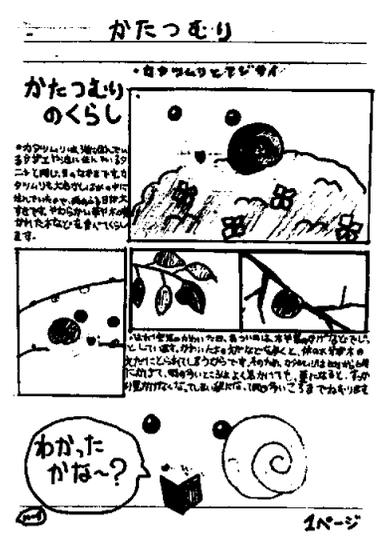
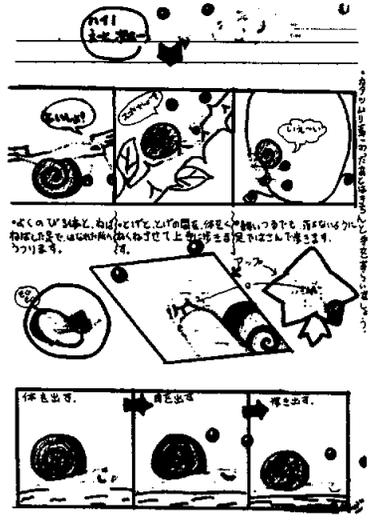
## 〈体〉

カタツムリは、サザエなどと同じ貝の仲間です。だから、体は、ほとんど同じようになっています。目、大しょっかく、小しょっかく、口、ふくそう、からなどとなっています。からの中には、はい、心ぞう、かんぞうと、内ぞうが、ぎっしりとつまっています。だから、少しでもわると、内ぞうに、みずがついてしまうのです。

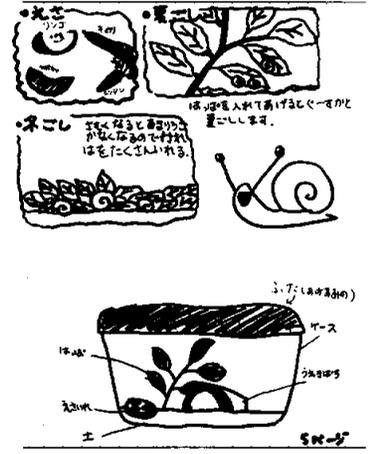
カタツムリの目は、あまり遠くが見えません。だから、目で見るのが、あまりできないのです。わたしは、レタスを近くにおいたら、とおりずぎで行ってしまうか、おいてあるのに気づいて食べるか、と調べてみました。

一回目は、レタスがあるのに気づいて、パリパリと食べました。「本当に、見えなくても気づくのかなあ。」と思いました。

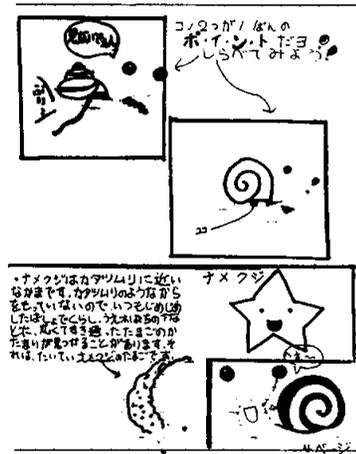
二回目は、レタスがおいてあるのに気づいてしばらくレタスをじゅっと見ていましたけど、食べませんでした。「おなかがいっぱいなのかなあ。」と思いました。お母さんが、「カタツムリ君食べたくないんじゃないの。」と言いました。なんとなく、カタツムリが、へんなかお（かわにしわが）になっっていました。（以下省略）



### かいかた



### かんさつだ



### 銅賞

#### トリオプスの飼育

根室市立花咲小学校三年

刀禰 春洋

ぼくは、この夏休みにトリオプスの飼育をしました。トリオプスとは、恐竜のいた時代よりもずっと昔から地球上に生息していた節足動物です。ずっとほとんど進化してなくて「生きている化石」といわれています。

なぜトリオプスにしたかというと、恐竜にきょうみを持っているし、化石など集めるのも好きで人間が生まれる前の時代に関心があるからです。テレビでトリオプスについてやってました。

育ててみたいと思ったら、デパートで売っているのを見つけて育てることにしました。

トリオプスは、二畳紀といわれる時代からいたといわれています。恐竜がいた時代は、今から二億三千万年前から六千五百万年前の中生代といわれる時代なので、それよりもっと前です。

**飼育の仕方**

①水道水をバケツにくみ、一日以上太陽の光をあててカルキ抜きをします。卵を入れます。水温は二十〜三十度くらいがいいので、洗面器の中にお湯を入れて水そうの水をあためました。

②一日たつと産まれます。でもあまりよく見えません。注意して見ていると、白い小さい点みもないものがピクピク動いてたがっています。

③二・三日たつと二ミリメートル位で生きものらしきものが動いているのがわかります。その時の姿はクリオネのようです。ヒラヒラ動いてみ

えます。ここまでは、まだエサはあげません。

④トリオップスは、どんどん大きくなります。毎日のように脱皮して（脱皮がらがあるのです）五日ぐらいで五ミリメートルぐらになります。

この頃からえさ（木くずみみたいなもの）を食べ残さない程度あげます。

⑤十日くらいたったたら、ちがうエサも一粒ずつあげます。このころになると、水そうの中でかわいらしく泳いでいるのがはっきりわかるし形もわかります。

⑥トリオップスは粒のエサをやると、ラッコのように反対向きになってたくさんある足のようなもの（いつもヒラヒラしている）でうまく口もとにもっていきます。とつてもかわいいです。

でもエサは、朝と晩二粒しかあげたらいけないそうです。水草も食べます。水草につかまって遊んだりもしているので水草は入れてあげます。

⑦トリオップスとは、ギリシャ語で「三つの目」という意味だけど、はっきりした黒い二つの目とその間に目みたいのがあるというけれど、二つの目があまりはっきりしているの、もう一つはあまりよくわからない。

⑧水がきたなくなつたらかえてあげる。

⑨脱皮はわりと早い。背中がわかれてパツとび出すようなかんじです。

⑩二週間くらいたつと一センチメートルにはなっている。このころか脱皮のスピードもおちて三日に一回くらいになる。

⑪えさの食べ方

⑫トリオップスは最高五センチメートル位になるそう。うちのは三センチメートルはあるからまだまだ大きくなりそう。寿命はだいたい三十〜五十日

といわれているが、二ヶ月以上生きたものもいるらしいから、大事にがんばってみるつもりです。

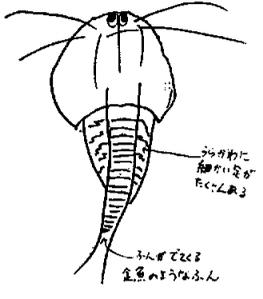
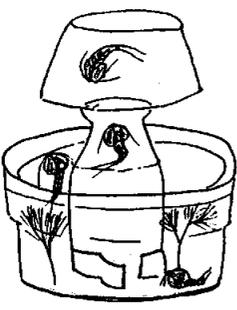
⑬二匹いると、たいてい卵をおなかに持って卵をとれるそうなのでやってみます。うちのはちょっとそれらしいのが足のほうにくっついていて（一部省略）

⑭トリオップスの卵は左右に卵の入ったふくろを持ちます。（うちのは今そのじょうたい）

卵は〇・五ミリメートルぐらいの丸い粒で、色はオレンジです。

⑮卵を産んだら取り出し、一ヶ月ぐらい室温で乾燥させてからまた育てるらしいです。ぼくは二世にしようせんします。

ぼくの目の前に恐竜よりもつと前からいて、恐竜時代もいっしょに生きたものがあるのが信じられませんが。不思議な感じがします。何世も



銅賞

秋の虫たちつかまえた

札幌市立月寒小学校二年

高木 宏徳

夏休みがあと少しでおわる日に、ぼくとお母さんと妹の三人で、家のそばの草むらで虫とりをしました。なんで虫とりをしたかというのと、何日か前から虫の声が聞こえたからです。

草むらに入ると、ぼくのせより高い草がいっぱいありました。黄色のせの高い花があつて、お母さんに聞いたら、お母さんは、「マツヨイ草だよ。」

と、こたえてくれました。そして、小さな赤いつぶつぶの花もありました。またお母さんに聞くと、こんどは、「ネジリ花だよ。」と、こたえてくれました。

その他にもいぬたでやねこじやらしがありました。ぼくは、赤いつぶつぶの花を見て、

「小さくてかわいいなあ。」と思いました。そう思っていたら、緑の草の上に草の色と同じ虫がいた。たくさんいたので、どんどんつかまえていったら、おもしろいくらいつかまりました。ぼくは、

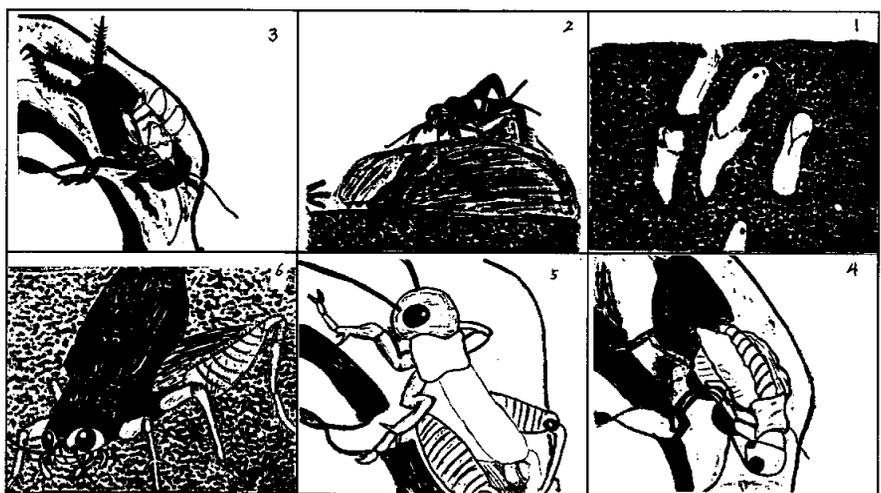
「やったー。九ひき目ゲットだぜ。」

といたった。  
よく見ると、おしりにつの生えたのや、おしりがみじかくて二つにわかれていたのがいた。体の長さは、小さいので三センチメートル、大きいので五センチメートルぐらいありました。体の色は、たいていきみどり色でした。せなかに茶色のすじのある虫もいた。



ぜんぶで二十六ぴきもつかまえた。  
妹が、  
「もう帰ろうよ。」  
といたので、もっとつかまえたかったのに、家に帰った。  
帰ってからじてんでしらべると、たぶん、シヨ

ウリヨウバツタ、ツユムシ、カヤキリ、ウマオイ  
というキリギリスやバツタの仲間でした。  
ぼくは、いまは鳴いていないけど、夜になったら鳴くといいなあと思いました。



エンマコオロギの成長と羽化 6年 西川直輝

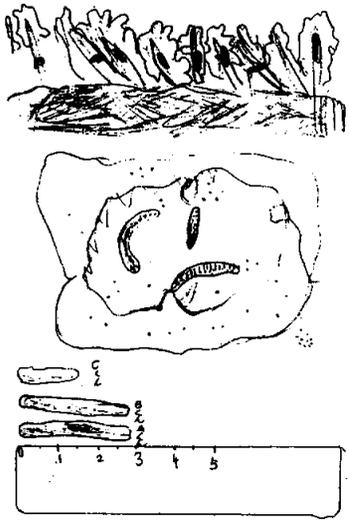
銅賞

あおむしのかんさつ

札幌市立苗穂小学校一年

荒谷 有紗

七月二十五日 どよう日  
はたけのぶろっこりののはっぱから、あおむしをとってきた。うじょうじよいた。三びきかうことにした。キャベツをあげた。



たくさんたべて、くろくまるいちいさなうんこをたくさんした。  
ながさはかった。いっしょうけんめいのばしてはかった。まるまっていていやそうだった。  
Aくん二てん八センチ。Bくんもおなじ。Cくん一てん五センチ。

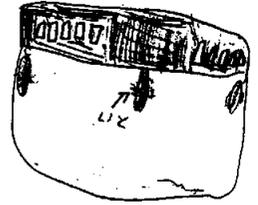
むむ  
にに  
よよ



く  
く  
ん



A  
く  
ん  
な  
ま  
ま



あ	て	む	て	い	さ	か	B	MARKET
る	た	に	ま	も	い	か	く	MARKET
が	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
っ	き	う	む	し	。	。	。	MARKET
た	も	こ	に	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
ち	い	。	。	。	。	。	。	MARKET

し	べ	C	び	し	さ	る	あ	MARKET
ん	ソ	く	。	ん	な	と	さ	MARKET
だ	の	ん	く	し	ぎ	A	お	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET

い	い	な	て	う	べ	き	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	MARKET



わ  
れ  
た  
こ  
ろ



す  
く  
ろ  
し  
ろ  
ち  
う

く  
く  
ん



い  
い  
す  
た  
い  
た  
あ  
い  
え

あ	い	の	い	あ	が	た	に	ま	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET

き	か	し	た	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET

た	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET
。	。	。	。	。	。	。	。	。	MARKET

